

# Catalyst Center 3.x Maglev(SSH)のパスワードリセット手順について

## 内容

---

[はじめに](#)

[バックグラウンド情報](#)

[前提条件](#)

[オンプレミス\(物理アプライアンス\)の要件](#)

[仮想アプライアンス\(ESXi\)の要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[手順1a: ライブCDからの起動\(オンプレミス\)](#)

[ステップ1b: ライブCDからの起動\(VA - ESXi\)](#)

[ステップ2a: Ubuntu ISOへのロード](#)

[手順2b: 必要なパーティションをマウントする](#)

[使用例1: Maglevアカウントのロック解除](#)

[ステップ1: maglevユーザがロック解除されていることを確認します](#)

[使用例2: Maglevユーザパスワードのリセット](#)

[ステップ1: Maglevユーザパスワードのリセット](#)

[ステップ2: Cisco Catalyst Center環境で通常どおりリブートする](#)

[ステップ3: Cisco Catalyst Center CLIからMaglevユーザパスワードを更新する](#)

[ステップバイステップのビデオガイド](#)

---

## はじめに

このドキュメントでは、Catalyst Center 3.x物理およびESXi仮想アプライアンスノードのMaglevユーザのロックを解除またはパスワードをリセットする方法について説明します。

## バックグラウンド情報

Maglevアカウントがロックアウトされている場合は、ログインしてロックを解除することはできません。Maglevユーザのパスワードのロックを解除またはリセットするには、物理アプライアンス用のCisco IMC vKVMにイメージをマウントするか、ESXi仮想アプライアンス用のVMにCD ISOをマウントする必要があります。これにより、シェルにアクセスし、ユーザやパスワードをリセットできます。

# 前提条件

## オンプレミス ( 物理アプライアンス ) の要件

- Ubuntu 22.04以降のISOイメージは<https://ubuntu.com/download/desktop>からダウンロードする必要があります。これは、xfsを使用するUbuntu 22.04でファイルシステムがどのように変更されたかによるものです。
- ローカルシステムにISOをダウンロードしたら、次にCisco Integrated Management Controller(CIMC)KVMにISOをマウントする必要があります。
- KVMにISOをマウントしたら、ISOからブートする必要があります。
- Ubuntuにアクセスしたら、rootディレクトリとvarディレクトリをシステムにマウントします。
- rootディレクトリとvarディレクトリをマウントした後、Maglevユーザーアカウントのロックを解除して変更できます。
- 最後に、アプライアンスをリブートし、Maglevでログインできることを確認し、コンフィギュレーションウィザードでパスワードをリセットします。

## 仮想アプライアンス(ESXi)の要件

- ISOのダウンロード
- ISOをデータストアISOファイルの場所またはvSphere/vCenterのコンテンツライブラリにアップロードします。
- VM ( 仮想マシン ) へのCD/DVD romの追加
- ブート遅延をより大きな値に変更する

## 使用するコンポーネント

この操作はUbuntu 25.10イメージで実行されました。イメージが異なると、時間と結果も異なります。

一部の環境では、Ubuntuデスクトップに到達するのに最大2時間かかることが確認されていますが、ほとんどのお客様の場合、プロセスは30分以内に完了します。

この操作は、Ubuntuデスクトップバージョンに限定されません。必要なのは、シェルへのアクセスだけです。この操作には、シェルアクセスを提供するバージョン22.04以降のUbuntuイメージが機能します。GentooやLinux SystemRescueなどのその他のイメージも動作しますが、シスコではUbuntu 25.10の使用を推奨しています。その他の試みは、ユーザー自身のリスクがあります。

。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。



注：DR環境でも同じ手順を使用できます。ただし、次の点に注意してください。

\*\*\*パスワードの回復/リセット方法を試行する前に、ディザスタリカバリが一時停止状態であることを確認します\*\*\*

1+1+1のDR導入では、このプロセスが完了する間、対応するサイトがダウンします。

3+3+3では、3つのノードすべてでパスワードを更新する場合は、他の2つのノードを確実に使用して不要なDRフェールオーバーを回避するために、1回に1つのノードで実行します。

レスタ

## 手順1a：ライブCDからの起動（オンプレミス）

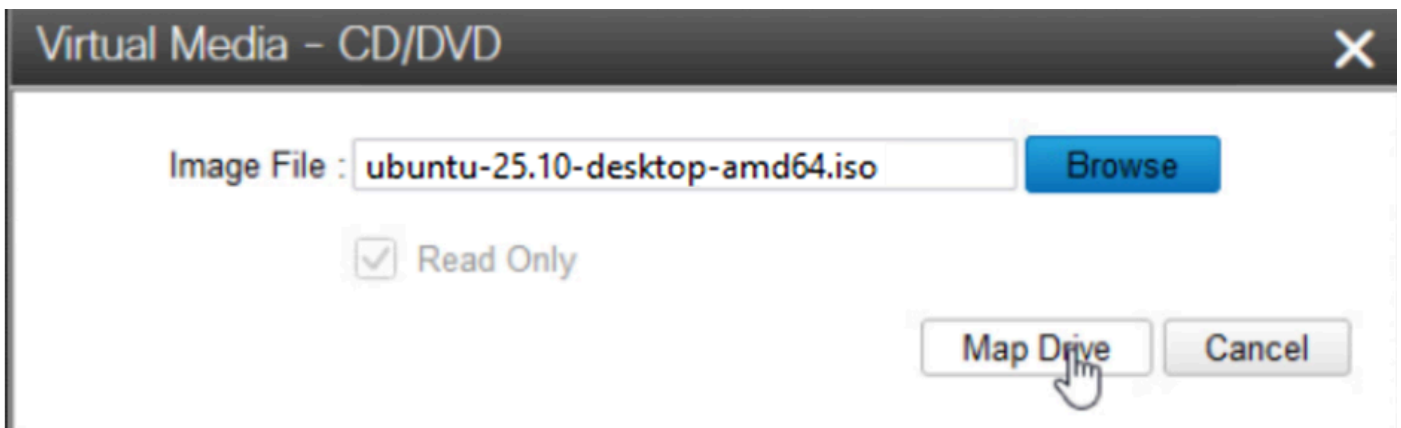
Cisco IMC GUIにログインし、Launch KVMを選択してから、Virtual Media > Activate Devicesの順に選択します。



次に、Virtual Mediaに戻り、Map CD/DVDを選択します。



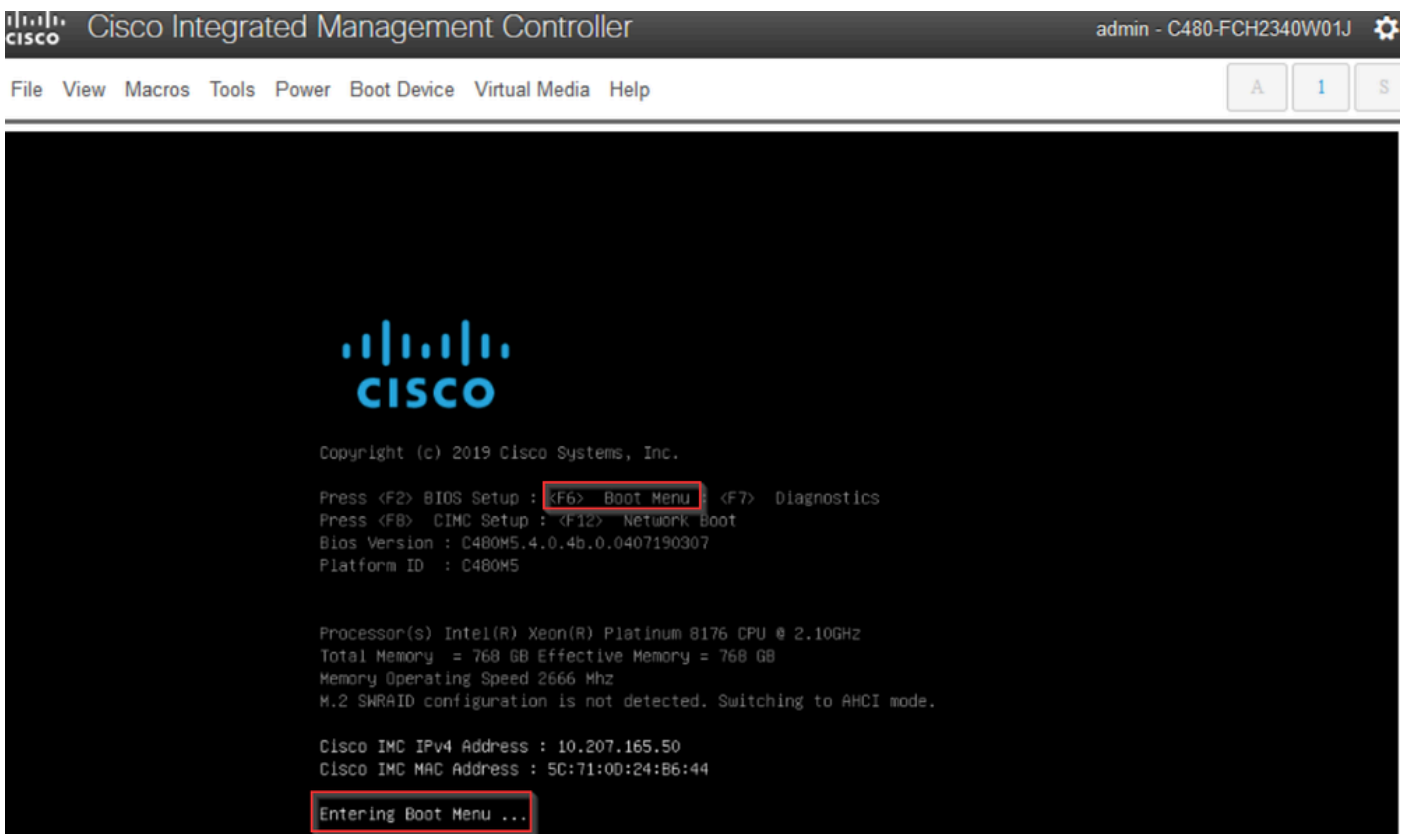
その後、Browseを選択し、ローカルシステムにダウンロードしたUbuntu ISOイメージを選択します。Ubuntuイメージを選択したら、Map Driveボタンを選択します。



Virtual Mediaに戻り、マップされたISOをオプションとして表示することで、イメージがアクティブ化され、マップされたことを確認できます。

次に、電源>システムのリセット ( ウォームブート ) でアプライアンスの電源を再投入します。

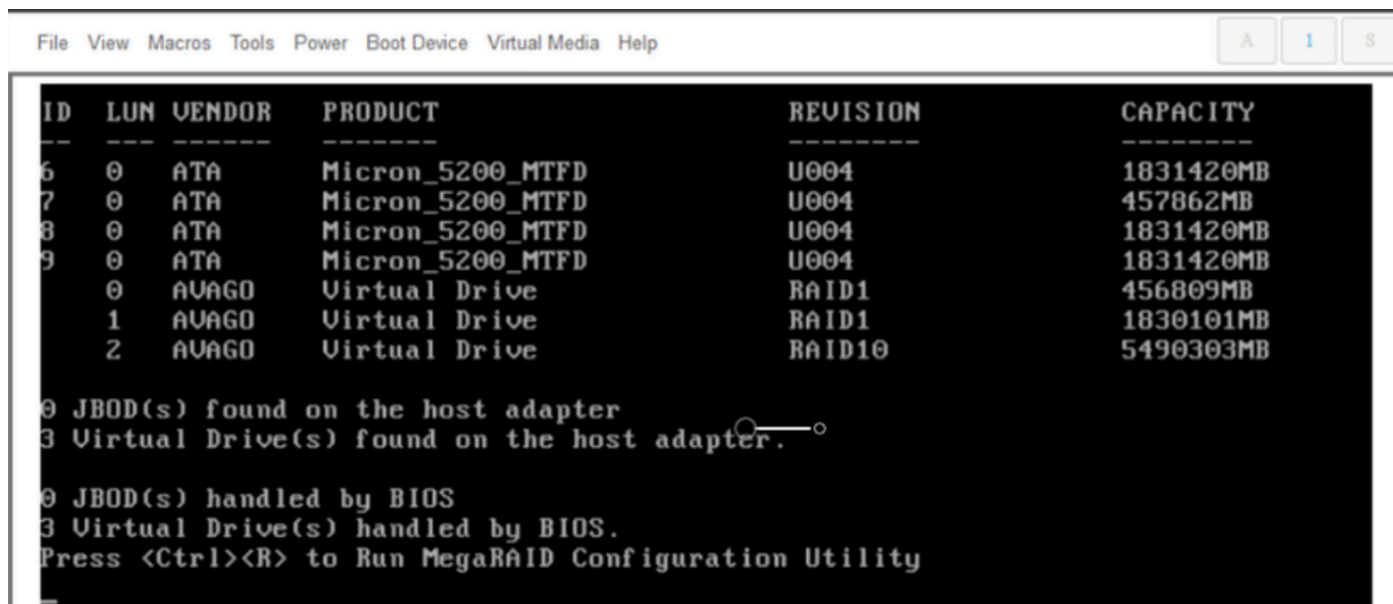
システムのリブートが完了したら、Ciscoロゴが表示されたらF6キーを押します。



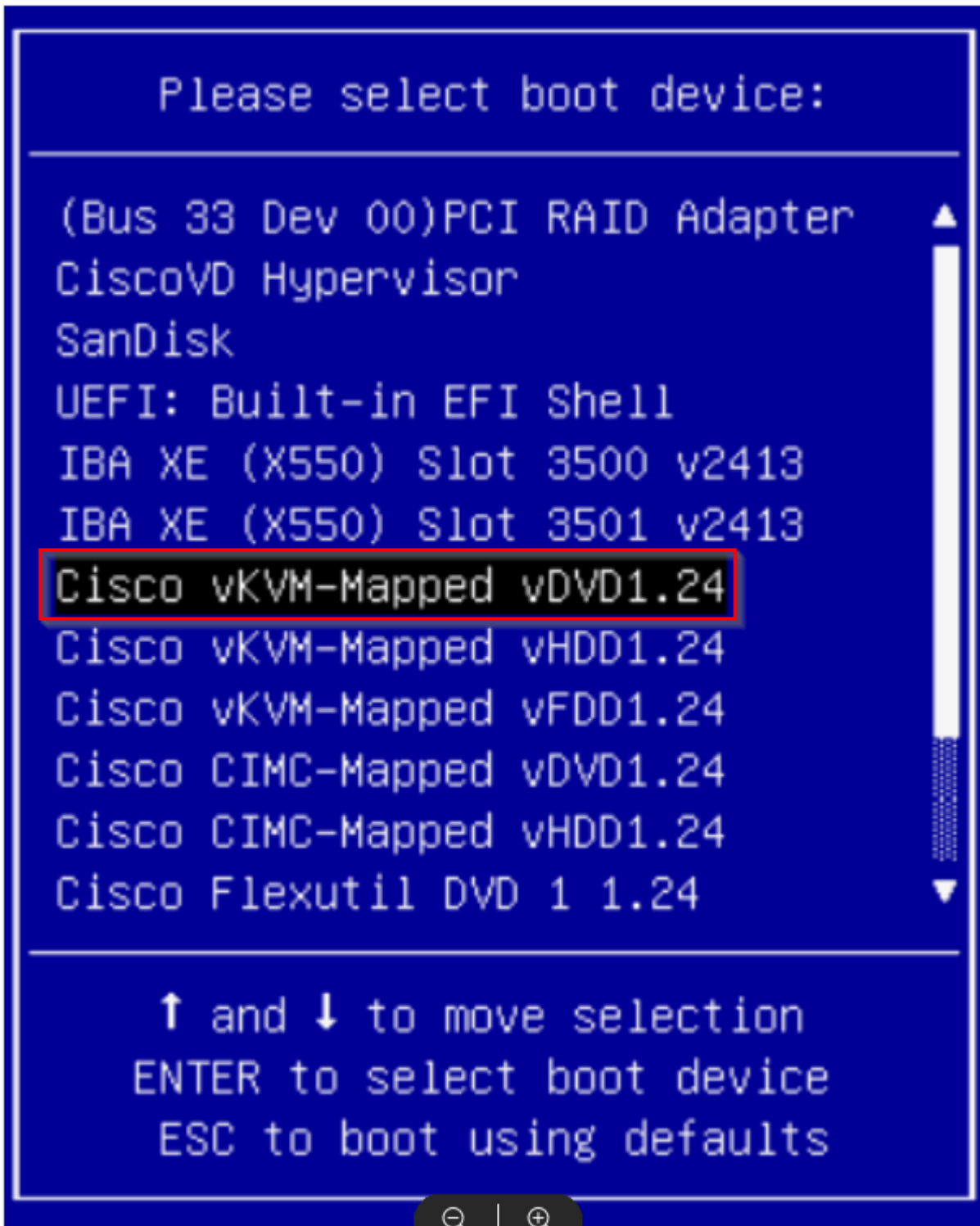
画面の下部に「Entering Boot Menu ...」と表示されるので、正常に動作していることがわかりま

す。

しかし、2番目の画面が表示され、それがブートメニューに入っていることを確認できます。シスコの最初の画面でF6を押し忘れた場合は、ここでF6を押します。



ブートメニューがポップアップ表示されたら、Cisco vKVM-Mapped vDVD1.24というオプションを選択します。これにより、アプライアンスは以前に選択したマッピングされたUbuntuイメージから起動します。



## ステップ1b : ライブCDからの起動(VA - ESXi)

vCenter/vSphereで、VMがある場所へ移動し、VMを右クリックして、Edit Settingsをクリックします。そこから、ADD NEW DEVICEをクリックし、CD/DVD Driveを選択します。

1. **ADD NEW DEVICE** ▾

> CPU	32	▾	
> Memory	256		▾ GB
> Hard disk 1	100	GB	▾
> Hard disk 2	550	GB	▾
> Hard disk 3	2.295	TB	▾
> Hard disk 4	100	GB	▾
> SCSI controller 0	LSI Logic Parallel		
> Network adapter 1	ENTERPRISE-NETWORK ▾		
> Network adapter 2	CISCO-MGMT-NETWORK3 ▾		
> Video card	Specify custom settings ▾		
VMCI device			
> Other	Additional Hardware		

- Disks, Drives and Storage
  - Hard Disk
  - Existing Hard Disk
  - RDM Disk
  - Host USB Device
  - CD/DVD Drive**
- Controllers
  - NVMe Controller
  - SATA Controller
  - SCSI Controller
  - USB Controller
- Other Devices
  - PCI Device
  - Serial Port
- Network
  - Network Adapter

これで、CD/DVDドライブが設定ページに「New CD/DVD Drive」と表示されます。ISOをデータストアISOファイルにアップロードした場合は、CD/DVD用にそのオプションを選択します。それ以外の場合は、コンテンツライブラリISOファイルを選択します。

# Edit Settings



Virtual Hardware | VM Options

ADD NEW DEVICE ▾

> CPU	32 ▾	
> Memory	256 ▾ GB ▾	
> Hard disk 1	100 GB ▾	
> Hard disk 2	550 GB ▾	
> Hard disk 3	2.295 TB ▾	
> Hard disk 4	100 GB ▾	
> SCSI controller 0	LSI Logic Parallel	
> Network adapter 1	ENTERPRISE-NETWORK ▾	<input checked="" type="checkbox"/> Connected
> Network adapter 2	CISCO-MGMT-NETWORK3 ▾	<input checked="" type="checkbox"/> Connected
> New CD/DVD Drive *	<input checked="" type="checkbox"/> Client Device Datastore ISO File <b>Content Library ISO File</b>	<input type="checkbox"/> Connected
> Video card	2.	** Select ISO file from Datastore or Content Library
VMCI device		
New SATA Controller	New SATA Controller	
> Other	Additional Hardware	

ブートに使用するISOファイルを選択します。この手順では、Ubuntu 25.10 ISOを使用します。

## Choose an ISO image to mount



3.

Name	Content Library	Description	Size	Last Modified Date
<input checked="" type="radio"/> CentOS-7-x86_64-DVD-2207-02	Cisco Software - OVA Images		4.42 GB	Oct 2, 2023 11:AM
<input type="radio"/> en-us_windows_11_iot_enterprise_version_23h2_x64_dvd_fb37549c	Microsoft-Content		5.82 GB	Nov 8, 2023 12:AM
<input type="radio"/> en-us_windows_11_business_editions_version_23h2_x64_dvd_a9092734	Microsoft-Content		6.12 GB	Nov 8, 2023 12:AM
<input type="radio"/> en-us_windows_11_consumer_editions_version_23h2_x64_dvd_8ea907fb	Microsoft-Content		6.24 GB	Nov 8, 2023 12:AM

**\*\* Select your desired ISO File to boot from**

CANCEL

OK

次に、New CD/DVD Driveの右側にあるConnectedのボックスが有効になっていることを確認します。

# Edit Settings



Virtual Hardware | VM Options

ADD NEW DEVICE ▾

> CPU	32 ▾	
> Memory	256 ▾ GB ▾	
> Hard disk 1	100 GB ▾	
> Hard disk 2	550 GB ▾	
> Hard disk 3	2.295 TB ▾	
> Hard disk 4	100 GB ▾	
> SCSI controller 0	LSI Logic Parallel	
> Network adapter 1	ENTERPRISE-NETWORK ▾	<input checked="" type="checkbox"/> Connected
> Network adapter 2	CISCO-MGMT-NETWORK3 ▾	<input checked="" type="checkbox"/> Connected
> New CD/DVD Drive *	Content Library ISO File ▾	4. <input checked="" type="checkbox"/> Connected
> Video card	Specify custom settings ▾	
VMCI device		** Click "Connected" and save settings
New SATA Controller	New SATA Controller	
> Other	Additional Hardware	

設定画面の上部にあるVMオプションをクリックします。次に、Boot Optionsの下矢印をクリックして、Boot Delayの値を、10000などのより大きな値に変更します。これにより、VMの再起動後にブートメニューに入るオプションを確認する時間が与えられます。

Virtual Hardware **VM Options**

> General Options	VM Name: apic-em-cluster-
> VMware Remote Console Options	<input type="checkbox"/> Lock the guest operating system when the last remote user disconnects
> Encryption	Expand for encryption settings
> Power management	Expand for power management settings
> VMware Tools	Expand for VMware Tools settings
<b>&gt; Boot Options</b>	
Firmware	BIOS (recommended) v
Boot Delay	When powering on or resetting, delay boot order by <b>10000</b> milliseconds
Force BIOS setup	<input type="checkbox"/> During the next boot, force entry into the BIOS setup screen

CANCEL OK

次に、VMを再起動して、ISOから起動するためのブートメニューにアクセスできるようにします。

5. \*\* Restart the Catalyst Center VA

6. Launch the web console so that you can click on the boot settings as the Catalyst Center VA boots up.

At this point, you would select the CD/DVD drive with the mounted ISO file and perform your necessary tasks.

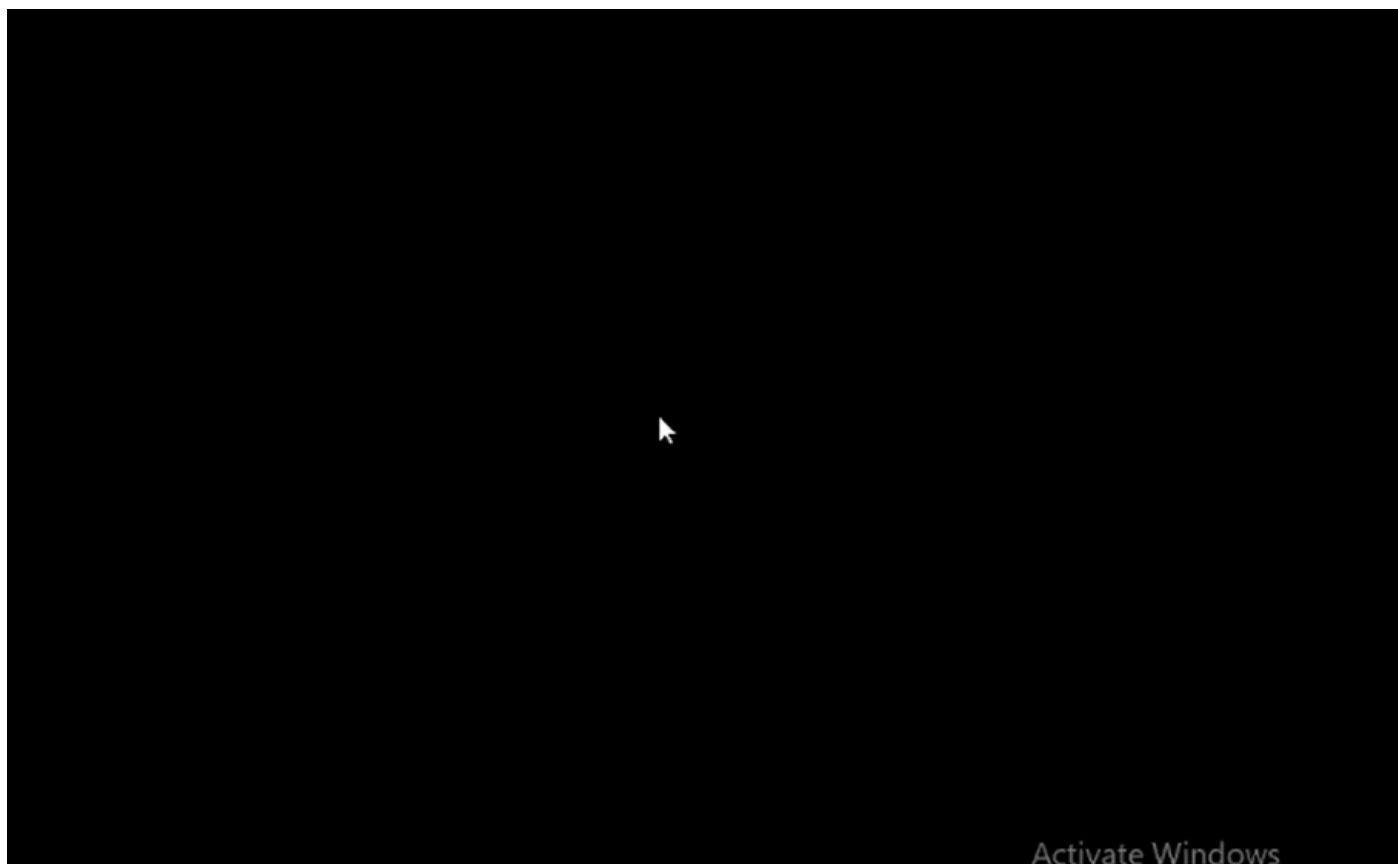
ACTIONS v Capacity and Usage  
Last updated at 8:48 AM

## ステップ2a:Ubuntu ISOへのロード

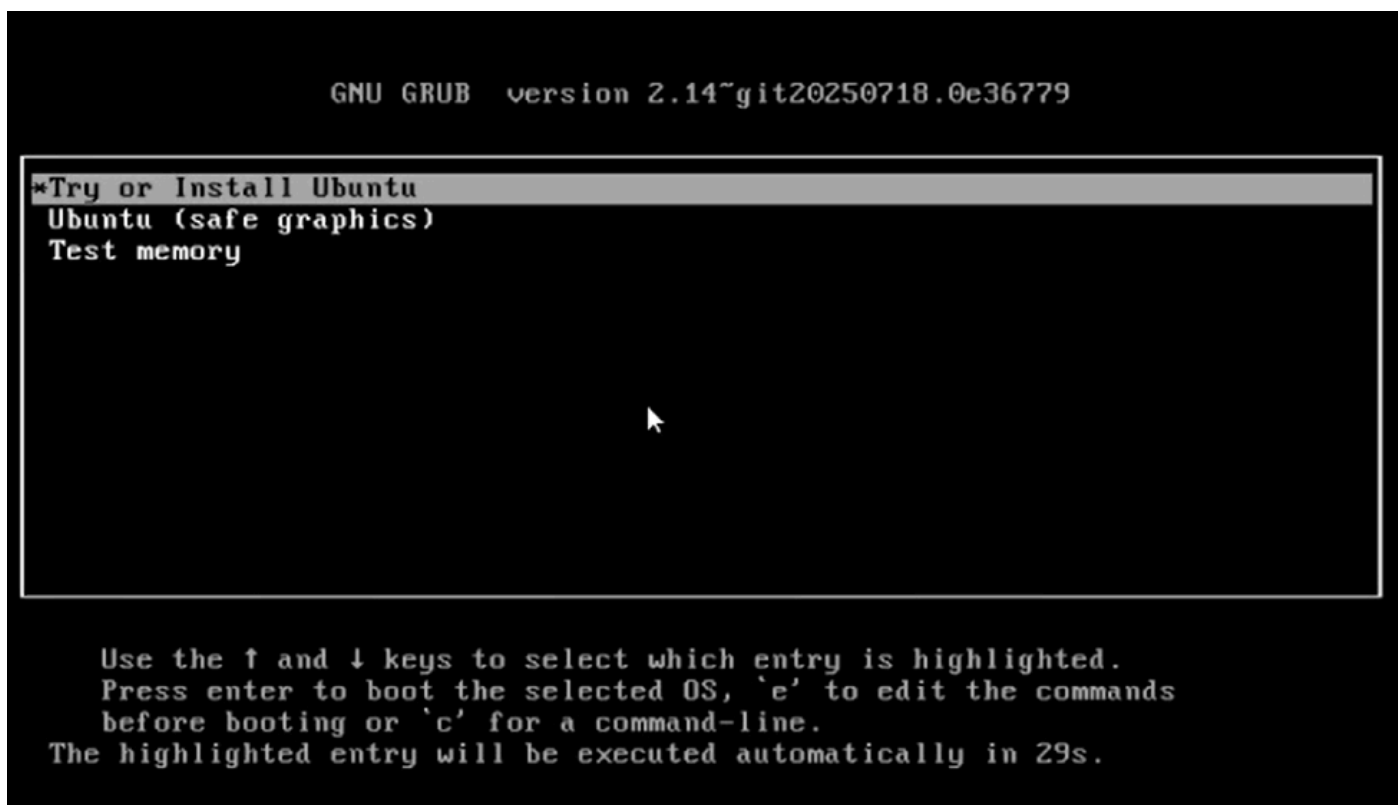


注:\*\*\*のスクリーンショットは、ラボでUbuntuデスクトップに到達するまでの時間を示しています。リカバリに使用する環境やイメージによって異なる\*\*\*

これは、最初に表示される画面です。何も起こっていないように見えますが、ただ待ちます。ラボでは、この画面が40秒間表示されます



その後、これらのオプションが提示されました。Try or Install Ubuntuを選択して続行します。



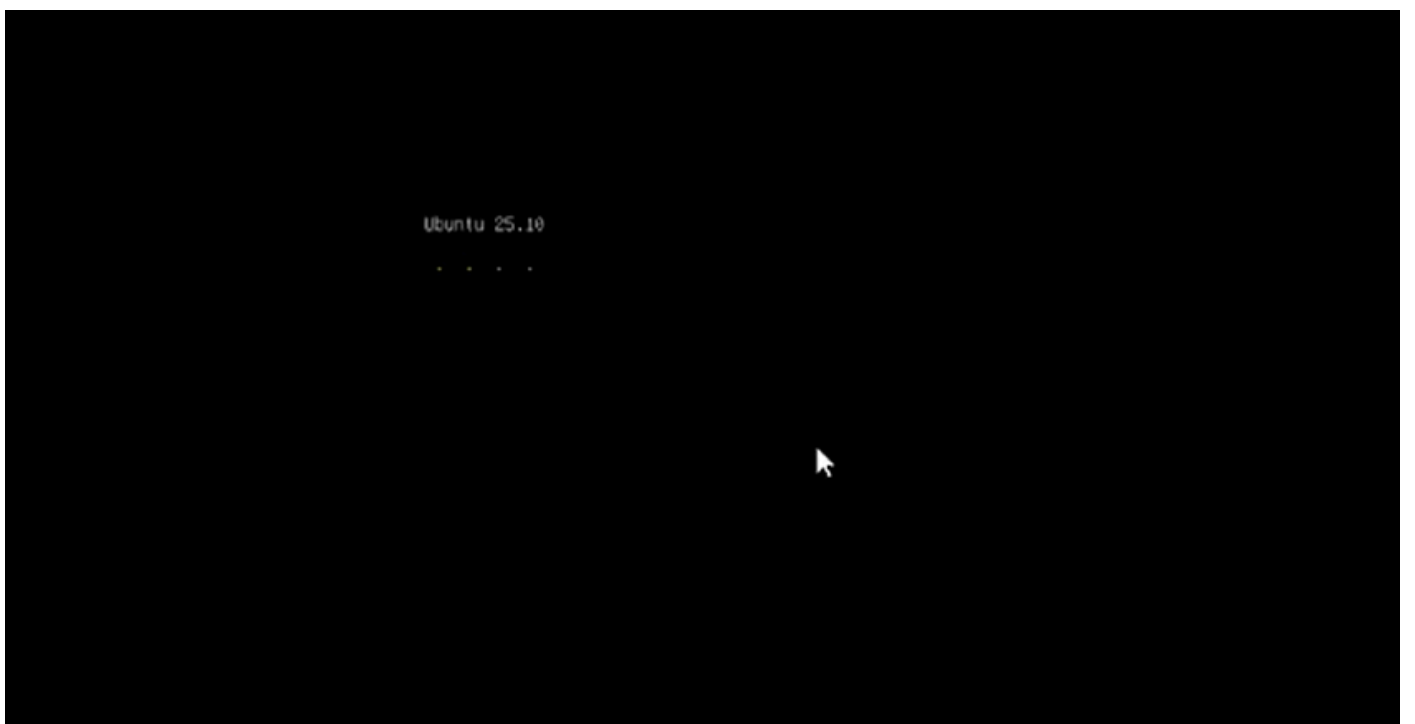
次に、このプロセスがこの画面に到達するまでに約3分かかりました。



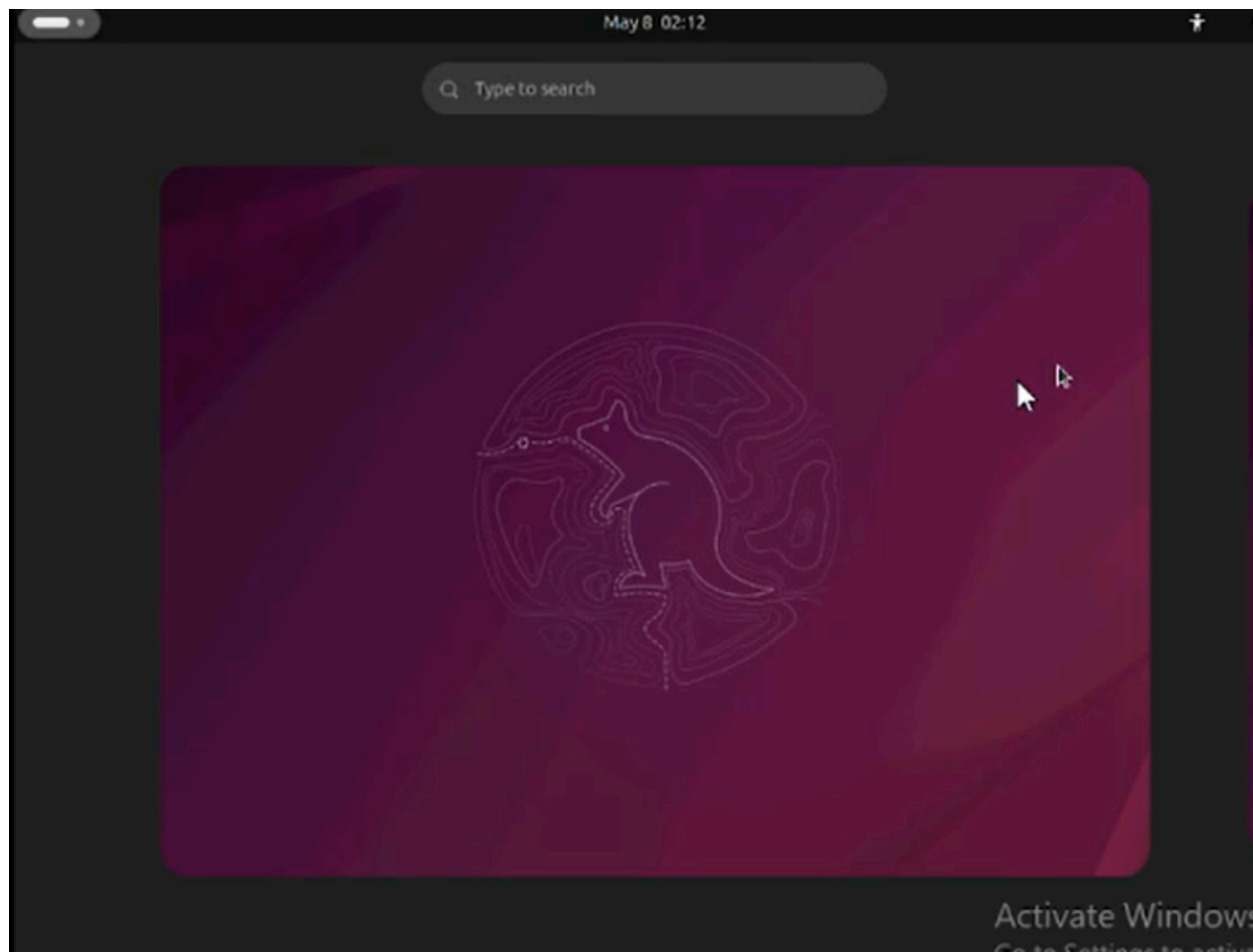
さらに11分経過しても、画面にはUbuntu 25.10が表示されたままです。



次に、Ubuntu 25.10が表示されるまで、画面が約30秒間黒い画面に戻りました。



さらに10分が経過すると、画面はUbuntuロード画面に移りました。



Ubuntuデスクトップのロードには、ここから約5分かかります。インストーラは自動的にロードされ、インストーラウインドウの右上にあるXをクリックすると安全に終了できます。

Welcome to Ubuntu



Preparing Ubuntu...

インストーラを閉じた後、ターミナルウィンドウを開き、手順2bに進みます。

\*\*\*注意：一部の環境では、このポイントに到達するまでに最大2時間かかることが確認されています。このデモンストレーションでは、に到達するまでに約35分かかりました。\*\*\*

## 手順2b：必要なパーティションをマウントする

UbuntuデスクトップGUI環境にアクセスしたら、ターミナルアプリケーションを開いて次の手順を実行する必要があります

- 一時マウントポイントを作成します。
- rootパーティションとvarパーティションをシステムにマウントします。
- 仮のファイルシステムを一時的なマウントポイントにマウントします。

まず、次のコマンドを使用して、一時マウントポイントを作成します。

<#root>

```
sudo mkdir /altsys
```

次に、マウントするルートパーティションとvarパーティションを見つける必要があります。lsblk -fm | egrep "var|install1"コマンドを使用して、"install1" ( ルート ) および"var"にマウントするパーティションを見つけることができます。次の手順でmountコマンド用に特定したパーティションを書き留めます

varについては、120Gパーティションとの一致が見つかりました。この場合はsdb2です。

install1(root)について、335.6Gパーティションとの一致が見つかりました。この例では、sda5です

```
ubuntu@ubuntu:~$ lsblk -fm | egrep "var|install1"
└─sda5 xfs          install1          a4d195e1-0451-4b99-b5e0-736a7f1410c6
                        335.6G root disk brw-rw----
└─sdb2 xfs          var              2fc8657a-c41a-435e-b0d0-5359ae9b788d
                        120G root disk brw-rw----
ubuntu@ubuntu:~$
```

varパーティションとrootパーティションを特定したら、それらをマウントします。

<#root>

```
sudo mount /dev/sda5 /altsys
```

```
sudo mount /dev/sdb2 /altsys/var
```

rootとvarがマウントされたら、ファイルシステムをマウントします。

<#root>

```
sudo mount --bind /proc /altsys/proc
```

```
sudo mount --bind /dev /altsys/dev
```

```
sudo mount --bind /sys /altsys/sys
```

パスワードを変更するか、Maglevアカウントのロックを解除する前の最後の手順は、一時マウン

ト環境に変更することです。

```
<#root>
```

```
sudo chroot /altsys
```

## 使用例1: Maglevアカウントのロック解除

ステップ1: maglevユーザがロック解除されていることを確認します

```
<#root>
```

```
grep maglev /etc/shadow
```

```
<#root>
```

```
maglev:
```

```
!
```

```
$6$6jvRGoDihpcsr8X1$RUFs.Lb.2Abbgv0DfJsw4b2EnpSwiNU1wJ6NQIjEnv0tT5Svz4ePHZa4f0eUvLH17VAFca46f2nHxqMWORY
```

パスワードハッシュの前に感嘆符(!)があるかどうかを確認します。存在する場合は、アカウントがロックされていることを示します。コマンドを入力してユーザのロックを解除します。

maglevユーザのロックを解除するには、次のコマンドを使用します。

```
<#root>
```

```
usermod -U maglev
```

## 使用例2: Maglevユーザパスワードのリセット

## ステップ1:Maglevユーザパスワードのリセット

```
<#root>
```

```
#
```

```
passwd maglev
```

```
Enter new UNIX password: #Enter in the desired password
```


```
Retype new UNIX password: #Re-enter the same password previously applied
```

```
Password has been already used.
```

```
passwd: password updated successfully #Indicates that the password was successfully changed
```

## ステップ2:Cisco Catalyst Center環境で通常どおりリブートする

KVMウィンドウでPowerをクリックしてから、Reset System (warm boot)をクリックします。これにより、システムがリブートし、RAIDコントローラを使用してブートするため、Cisco Catalyst Centerソフトウェアが起動します。



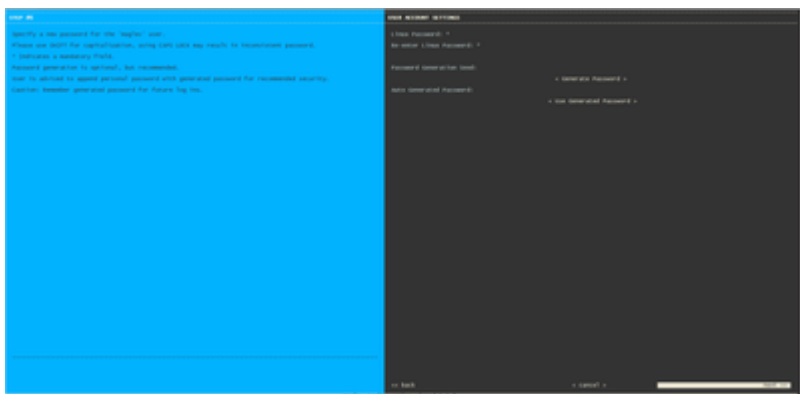
```
Loading Linux 5.15.  
Loading initial ram  
_
```

おそらく、このイメージは約5 ~ 10分間ロード状態のままになっています。これは、正常な動作です。最終的に、画面はログイン画面に移行します。

## ステップ3:Cisco Catalyst Center CLIからMaglevユーザパスワードを更新する

Cisco Catalyst Centerソフトウェアが起動し、CLIにアクセスできるようになったら、`sudo maglev-config update`コマンドを使用してMaglevのパスワードを変更する必要があります。この手順は、変更がシステム全体に確実に反映されるようにするために必要です。

構成ウィザードが起動したら、ウィザード全体を移動して、ステップ6でMaglevパスワードを設定できる画面を表示する必要があります。



Linux PasswordとRe-enter Linux Passwordの両方のフィールドにパスワードを設定したら、nextを選択してウィザードを完了します。ウィザードが設定のプッシュを完了すると、パスワードが正常に変更されます。新しいSSHセッションを作成するか、CLIでコマンドsudo -iを入力して、パスワードが変更されたことをテストできます。

## ステップバイステップのビデオガイド

リンクを使用して、このワークフロー用に作成された手順を追ったビデオにアクセスしてください。

画像：Tomas De LeonおよびFaisal Mehmood

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。